



ちば市老連だより



花見川に新シンボル 弁天橋架け替え 平成 7 年 3 月終了

目 次

平成 7 年度事業計画	2
平成 7 年度行事予定表	3
平成 7 年 3 月 1 日婦人リーダー研修会における講演要旨	4～5
平成 6 年第 1 回女性リーダー研修会における実践発表	5～8
千葉市老人クラブ連合会事務局が平成 7 年 4 月 3 日 千葉市社会福祉事業団ビルに移転	9
第 1 回千葉市老連「県外研修」参加感想記	10～11

平成 7 年度事業計画

今年は、わが市老連にとっては、特別意味のある重要な年になると思います。それは端的に云えば、本年度が県老連退会後の市老連として独自性を発揮できるか否かの試金石の年であり、また、市当局の御指導で、今秋を目処に法人化（社団法人）の動きが活発化する年になると推測されるからです。また、千葉市が政令指定都市移行に伴う区制施行に準じて設立した各区老連の育成強化並に、運営活動について、財源面を含めて再検討すべきであると思います。市老連が、他の先進政令指定都市老連に比肩して、クラブ活動を推進していくためには、先ず当面する課題を整理して対処することが肝要であります。本年度事業についても、上述の背景をもとに検討した結果、財源的制約からほぼ前年度を踏襲することに決定しました。（別添行事予定表参照）なお、本年度は市当局のご配慮で事務局体制が一応確立しましたので、今後は、事業運営は固より単位クラブとの各種連絡も円滑に推進するよう努め、会員各位の御期待にそいたいと思います。

次に、本年度は市老連の一層の活性化を図るため、次に掲げる事項を目ざして努力する所存であります。

重点目標

1. 市老連の法人化（社団法人）
1. 区老連体制の整備強化
1. 地域における諸団体との交流を通じ、仲間づくりと会員加入の促進
1. 老人クラブ活動の活性化と女性リーダーの育成登用
1. 市老連活動財源の確保

平成 7 年 度 行 事 予 定 表

月別	行 事	関 連 行 事
4	14日 婦人部会 25日 理事会	20日 市老連会計監査 7日 関プロ会議
5	10日～24日 区老連ゲートボール大会 18日 理事会 歓送迎会 26日 総会 30日 新任会長研修会	17日 関プロ会議 24日 全老連評議会
6	4日 ゴミ0運動 5日 民謡講習会 6日 特選演芸会 12日 理事会 13日～16日 区老連囲碁将棋大会 13日～7月3日 地区別研修会	7日～9日 全老連中央セミナー(静岡県) 21日～23日 関プロ研修会(新潟県) 26日～28日 全老連事務局長会議
7	4日 ユニークダンス(1日) 5日～7日 婦人部研修旅行 11日 理事会 24日 ゲートボール大会 25日 ゲートボール大会予備	13日～14日 関プロ事務局職員研修
8	3日～8日 作品展 搬入 搬出 11日 理事会 22日 囲碁将棋大会 29日 指導者研修会	30～31日 関プロ活動推進員研修会
9	1日 ユニークダンス 6日 グランドゴルフ大会 7日 民謡講習会 8日 グランドゴルフ大会予備 12日 理事会 20日 社会奉仕の日 27日 芸能大会	
10	6日 理事会 14日 運動会 土 15日 運動会予備日 31日 輪投げ大会	3日～4日 全国老人クラブ大会(岐阜県) 21日～24日 第8回全国健康福祉祭 (島根県)
11	2日 理事会 13日～15日 会長研修旅行(2泊)	7日～8日 関プロ連協会議 8日～10日 全老連活動推進セミナー 16日～17日 総務担当研修会(静岡県) 28日～29日 関プロ事務局長会議(横浜市)
12	8日 理事会 11日～17日 年末慰問	5日～6日 全老連会長会議(静岡県)
1	10日 理事会 18日 会長新年会	31日～2月1日 全老連事務局長会議
2	1日～5日 ふれあいの店 19日～23日 区老連研修会	14日～16日 全老連女性セミナー 女性委員会総会
3	1日 婦人リーダー研修会 7日 理事会	21日 全老連理事会

老人クラブに期待する友愛活動

帝京平成短期大学教授 石 黒 チイ子

★ ボランティア活動とは

- ① ・私達が日常ボランティア活動と云っているのは、自分の住んでいる所の周囲の助け合いで、そして一番役に立つと思うのは社会福祉協議会よりも、日赤奉仕団である。
- ・最近若い人は色々な活動に参加せず、やりたい時にやる自由で、気ままで、自分本意である。自分は何をすれば、役に立つのか考えるべきである。
- ・三原山噴火の時、港区に避難してくる人に炊き出しをし、温かいみそ汁で元気を出してくれた。

★ 地域社会

- ② ・高齢者の生活は三世代家族より、核家族になり、残された老夫婦が多い。
- ・鎌取より新木場にバスで行く途中、澤山のマンションがある。そこには、近隣とのつき合いのない独居生活者が多く孤立化している
- ・人生80年代暦の上で年を数えるのではなく、医学的立場、精神的状態によって考えるべきである。現在の高齢者は若く、 $80歳 \times 7 = 56$ 歳位の健康状態と云える。

★ ボランティア活動について

- ③ ・石黒先生はボランティアに取り組んで4年目になる。ボランティア活動の年齢別調査をまとめ、近いうち本にして出したいとの事。
- ・男性は停年退職後、家庭にこもりがちで、自立出来ないのは女性の責任と云われている…（ドクターが知っている）
- ・ご主人に先立たれた女性は、生きがいを見つけ、今迄の生活より自立出来る。
- ・沖縄では、近く of 場所に集って行動を共にし、食べたりカラオケを唄い、入浴したりで、中に80歳のおばあちゃんが（軽い痴呆症）一緒に行動を共にして、家にかえっても顔色が明るくなったと云う。

★ 近隣の人々と交流の必要性

- ④ ・アメリカ、イギリス、韓国、ドイツ等で日本人との付き合いの比較を考える時、調査の結果日本が一番付き合いが悪いと出ている。マンションの住人同志のつきあいも悪いし、又家族の結び付きも非常に希薄になって来ている。
- ・日本の付き合いは、お歳暮やお中元等、物を介してのお付き合いで、外国人は風邪を引いた時（特にアメリカ・イギリス）何時も仲の良い近所のお友達がお世話をしたり、やさしい言葉をかけて

いる。常日頃近所の友達とのふれ合いが大事になってくる。

★ いじめの問題

- ⑤ ・学校地域社会の中で、我々が子供を育てた時代と今と比べると、我々の育てた方が良かった。子供に対する責任分担があり、又、子供同志で育て合った時代であった。家族構成が多い程、人間の交わりが出来、家族の和がある現在、子供のいじめ調査が行なわれているが、育てられた環境によってことなる、情緒未発達の問題が重要である。

★ 長寿社会のメリット（効果）

- ⑥ ・時間の流れが生活に大事になり、近隣の人達のふれ合いを。ネットワーク作りが大切である。
・これからの老人クラブ活動は多様化することで会員増加につなげ、蓄積している伝承を21世紀に、次の世代に伝える。
・友愛活動は云うが易いが、実行することはむずかしい。

（講演要点筆記 はまの台栄寿会 三浦 ヨシエ）

第 1 回女性リーダー研修会 実践発表

平成 6 年11月29日 千葉市役所正庁において

花見川みのり会会長 宮 口 みつゐ

私は花見川みのり会の会長兼任の婦人部長を勤めて参りまして、ちょうど1年になりました。

みのり会の状態は、まだまだ序の口で、これからと言う所です。ただ、此の1年間で、17名の方が入会され、其のうち13名の方が60代でございます。

私の地域では、25年振りで女性の老人会長が出たものですから、廻りの人達は興味しんしんで見ている人達、又心配して見ている人達。様々だったと思います。

前会長がお亡くなりになり、副会長だった私はやむをえず会長をお引受けした訳ですが、会長と言う責任の重さを痛切に感じまして大変困りました。

そこで私は、「女性だからこそ出来るんだ」と言う事を、実践するしかないと決めました。

まず第1に、1人1人の会員さんを大事にして、1人1人の会員さんとの対話を続けて行く事にしました。1軒1軒の家庭訪問から出発しました。1年間、時間を作っては家庭訪問を続け、お陰様で全会員の家庭訪問が終り、今では2度、3度目の訪問を続けております。

何しろ団地は5階建てで、階段を登ったり下りたりですから途中で階段恐怖症になりそうな事も度々ありました。又、会員さんにも色々な方がいらっしゃいます。特に古い方は、「私はあんたよりもキャリアがあるんだからね」とづけづけ言って、（さも後から入って、若いくせに会長になって生意気だ）

と言わんばかりの人もいらっしゃいました。

又、想像も付かない悩みを抱えている人、様々です。私は根気よく話を聞いてあげ乍ら、1人1人との対話を続けて来まして、会員さんのほとんどの方の状態がわかる様になり、大勢の方と心が通じ合える様になりました。

そうしている中に、毎月の定例会の出席率も50%から70%、多いときは80%位になりました。

又サークル活動を活発に行っております。コーラス教室、踊り、フラワー、詩吟、ヨーガ、グランドゴルフ、さわやか森林浴。又近いうちに大正琴が行われます。会員の90%は何かのサークルに入っております、中には2つも3つも掛持ちで頑張っている人もかなりいらっしゃいます。特に踊り、コーラス等は、友愛活動を積極的に行い、大変好評を得ております。

又、特に変わった事は、地域の自治会が大変良く応援をして下さる様になりました。私がか細い女性の老人会長であるが故に、心配なのだと思いますが、色々と提案をして下さったり、話し合いをよくしております。

昨年25周年総会を行いました、設営、受付、その他すべての雑務を自治会役員全員の出動で応援をして頂き、見事な総会で終る事が出来まして、本当に感謝しております。

又、昨年自治会の会報に老人会のアピールを2回も出して下さったり、又地域内の掲示板に「花見川みのり会」の会報を毎月掲示する事になりました。しかし私達老人会員も、受身になるばかりでなく、自治会と話し合いをしながら、「老人会あつての自治会、自治会あつての老人会」になる様に努力をしております。

此の様にして1年間があつと言う間に終わりました。振り返って見まして思う事は、私が女性だから、廻りの人達が暖かく見守って下さった事は、間違い有りません。心から感謝しております。

又女性だからこそ、しゃべりにしゃべりまくって、老人会をアピールして、一挙に、[花見川みのり会]を広くオープン出来たのも、女性の特権かなあ…と思っております。

いずれに致しましても、会員の1人1人と、心からの会話を続けて来た事と、自治会の応援があつたが故に、現在の人員増加の結果となつたのではないかと思っております。しかし、これから発展して行く途上に於て、(明治、大正、昭和の3世代が1つになって行く最も大事な時)を迎えているのではないかと思っております。

リーダー必携! クラブに一冊!

月刊『全老連』

月刊『全老連』は、老人クラブの全国的な取り組みや各地の活動事例、高齢者を取り巻く社会の動きなど、さまざまな情報を読みやすい誌面でお届けする全老連発行の機関誌です。クラブのさらなる活性化・発展に向けて、ぜひご購読いただき、今後のクラブ活動にお役立てください。

【お申し込み方法】
郵便局の「払込用紙」にて、通信欄に購読期間・部数を明記の上、下記の口座にお振り込み下さい。
口座番号: 00100-0-116577
加入者名: (財)全国老人クラブ連合会 機関誌係

“老人クラブ活動の羅針盤”



毎月1回10日発行 B5版・2色・24頁
年間購読料一年12回分(送料・消費税込み)

購読部数	1部当たり
1~30部	2,700円
31~50部	2,600円
51~100部	2,500円
101部~	2,400円

【お問い合わせ先】
財団法人 全国老人クラブ連合会 機関誌係
TEL 03-3581-5658
〒100 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル5階

ボランティア活動について

菅田地区老連婦人部 ホンダ第2グリーンクラブ代表 小 関 澄 子

平成4年6月緑区鎌取町に開所された、重度身体障害者施設「晴山苑」と、私たち菅田地区老連婦人部との出会いは、当時、地区連婦人部長であった横山みどりさんが、“身体障害者療護施設を建設する会”と深くかわり、理事として晴山苑の運営に協力しておられる関係上、鎌取地区の各老人クラブの皆さんがつどいあい入苑者の洗濯物の整理整頓や、庭園の草取り等のお手伝いをはじめたことがきっかけになりました。

横山さんの熱心な呼びかけもあり、その小さな輪が菅田地区老連婦人部に広まり、三々五々ボランティアとして参加するようになりました。

しかし、なんといっても活動の母体が老人クラブという高齢者の集まりですから、俗にいう弱者の立場で弱者の役に立つということに何かおこがましきもあって、会員の中にも戸惑いがありました。

従来、各婦人部ではそれぞれ創意工夫を凝らし、雑布を持ち寄り保育園、幼稚園、小中学校、老人ホーム等に寄贈したり、神社や公園等の清掃等の奉仕作業に取り組んでおりましたが、今回のように特定の施設に、定期的にボランティアとして関わることは、健康上の問題等負担が大きすぎるのではないかと、多少の不安もありました。

私たちのボランティアとしての取り組みは、平成4年8月から本格的に始動しました。1日2～3名ずつ、月23日程度、(土、日を除き毎日)の活動が計画され実施に移りました。活動できる人も120名を越えるようになり、地域別に各クラブを4分割し、

1. シニアグリーンクラブ(鎌取、辺田、平山) 41人
2. ホンダ第1グリーンクラブ(菅田1丁目) 28人
3. ホンダ第2グリーンクラブ(菅田2丁目) 23人
4. 緑樹会(菅田3丁目、高田、平川) 31人

として、千葉市ボランティア連絡協議会に平成4年12月、正式登録いたしました。

私たちは、晴山苑と関わりながらいろいろなことを学びました。

奉仕活動は“心の健康によい”“心を豊かにする”と言われていきます。けっして善意の押し売りであってはならないと思いますが、健常者(?)の思い上がりから、ついいらぬ心遣いをしてしまいがちです。

つらい境遇にもめげず一生けん命頑張っている入苑者の方々に、少しでも快適な生活を送っていただくためにも、私たちは心をこめて活動しているつもりです。

衣類は、何度も洗濯されるため目印の名前がなかなか判読できず苦勞もあります。

又、苑までの道のりを痛む足をいたわりながら、バスを乗り継いで通う会員の優しい善意が、苑とのつながりを深めています。

活動も定着し、軌道に乗ってきた平成5年春、突然不幸な出来事がおこりました。

「MRSA」に感染している患者が入苑者の中に沢山いると、Y新聞が大きく報道したのです。感染率は低いですが、特効薬がない。体の弱い人は感染しやすい等々が取り上げられ、このことが会員の中に大きな不信感となって波紋をひろめました。

ボランティア辞退の声がたちまち大きくなるとなって噴出しました。

苑側から釈明の会合の要請が数回あり、Y新聞報道のような事実は解決していること、「MRSA」は常在菌であり日常生活の中ではどこにでもあり健常者であれば全く心配がないこと等の確認をとりました。

残念なことにこれを機にして、5クラブがボランティアグループから脱会することになりました。

「MRSA」の騒動で2か月ほど活動を停止しておりましたが、気を取りなおし従来の4グループを3グループに縮小して新たな体制で、再度奉仕活動に取り組むことになりました。

その後、地理的に不便な平川、高田（西、東）のクラブが、平川町にある特養老人ホーム「ときわ園」に奉仕先を移し、シーツ、ネマキ他たたみの作業に取り組むこととなりました。

晴山苑には、鎌取地区から3クラブ、誉田地区から3クラブが、週3日～4日の割合で従来どおり取り組んでおります。

3グループの取りまとめは、ホンダ第2グリーンクラブとし、代表者は私、小関がつとめております。

活動予定表の作成や、千葉市ボランティア連絡協議会が開催する諸会合、研修会等には出来るだけ参加し、各グループ代表者との連絡、晴山苑とのパイプ役をつとめております。

私たちは、活動開始以来4年目を迎えようとしております。私のグループは登録人員が23名、最高年齢は80歳です。

晴山苑では洗濯物を通して、入苑者との会話も生れてきます。苑の行き帰りに玄関先や廊下で出合う車椅子の入苑者から「オバサンコンニチハ」、「マタキテネ」、「サヨウナラ」と声もかけられるようになりました。

不自由な手から渡された1粒のキャラメルの温かさ、そして満面の笑み…。

「又、くるから待っててネ」 私たちを必要としている人達がいてくれるのです。

高齢者のボランティアには限度があると思います。おむつをたたんだり、衣類をたたんだり平凡な作業のようで結構ハードな仕事です。

それでも私たちは、平成7年度千葉市ボランティア連絡協議会への登録もすませました。

私たちは、今後も条件の許される限り、ときわ園や、晴山苑とかかわりあっていきたいものと思っています。

本年10月の社団法人設立に向けて千葉市老人クラブ連合会
事務局が千葉市社会福祉事業団ビルに移転
(中央区中央1-3-1 電話043-224-2050)

市老連副会長 新 生 清 蔵

千葉市老人クラブ連合会は、昭和37年5月1日、千葉市亥鼻町の「万ぎく」で設立され、当初市老連の事務は、千葉市役所厚生課内に事務局が置かれ取扱っておりました。その後事務局は高齢者福祉課に移り、今日まで30有余年の長い歴史の道を歩んで、高齢者の福祉に貢献してまいりました。

ところが、千葉市は平成4年4月1日、政令指定都市として新たな飛躍と発展に向って発足することとなり、これに伴って市老連もまた平成6年県老連より分離独立し、本年10月には社団法人として新たな発展に向って進むことになりました。

こうした情勢の変化に対応し、事務局体制の強化がどうしても必要となり、今回市当局のご指導により本年4月3日、千葉市社会福祉事業団ビル内に事務局を移転設置することになりました。

当日は、市老連の新たな再出発を祝うが如く、晴天に恵まれ、午前10時より記念式典が行なわれました。

式典には高齢者福祉課より久野主幹、湯浅主査、藤代課員の出席を頂き、市老連からは、波多野・柴崎・新生正副長、坂口婦人活動推進部副部長、又事務局より得重・長島両局員が参加しました。

久野主幹より開局に際し、市老連の発展と市当局の力強い支援についての温かいご挨拶を戴きました。波多野会長より事務局設置について、市当局のご支援に感謝し、今後の市老連の運営と法人化について、会員一丸となって努力したい旨の挨拶がありました。更に久野主幹と波多野会長とが固い握手をかわされ、今日の喜びを共にし、明日に向っての発展を誓って、式典はなごやかに終了しました。引続き歓談に入り、今日までの歩み、そして明日の発展に向っての話し合いが続けられました。

第 1 回千葉市老連「県外研修」参加感想記

花見川地区 鷹の台いずみ会 会長 三 矢 金 吾

実施日時 平成 7 年 4 月 18 日～19 日

会 場 鬼怒川温泉 藤原町文化会館

宿 泊 地 鬼怒川温泉ホテルニュー岡部

講師および研修内容

三浦 洸一（歌手） 昭和 3 年 1 月 1 日生

主なヒット曲「弁天小僧」「東京の人」「踊子」「流転」

菊池 章子（歌手） 大正 13 年 1 月 28 日生

主なヒット曲「星の流れに」「母紅梅の唄」「岸壁の母」

アトラクション

三浦洸一、菊池章子両氏による「我が青春を語る」

平成 2 年 4 月にいずみ会に童謡同好会をつくって、主として「童謡」や NHK が全国から「日本のうた故郷のうた」として応募をつのって、選曲した 100 曲のうたなどを、コーラスでうたい始めたのは私であるが、正直に云って、愛だの恋などを主題にしたいいわゆる流行歌というのは若い時から好きではなかったから、三浦洸一はある特別の事情から会ったことがあって知っていたが、菊池章子という歌手は知らなかった。だから有名歌手の歌が聞きたくて参加したわけではない。花見川地区での参加者は僅か 11 名しかなかった。そのなかに適当な引率責任者が誰もいなかったのも、万一事故があった時のことを考え、地区の責任者として参加した次第。

今回の県外研修の参加者は、波多野会長以下総勢 184 名。市老連約 2 万の会員数からすると、9 % に過ぎず、この計画を聞いた時、今年 10 月には社団法人を目ざす千葉市老連としては、500 名くらいの参加が欲しいと思った。5 台のバスに分乗して約 5 時間かけて会場の藤原町文化会館に到着したが、ここは千葉市民会館よりは少し大きく、事実、前日の 17 日には千葉県老連主催で 1000 名参加して、同じ内容の県外研修が行われたようだ。

前置きが長過ぎたが、さて、参加した殆んどの人が深い感銘を受け、参加したことを喜んでいたと思う。私も又同様で、何故よかったか、昨年 9 月の県外研修の永六輔の講演の時と同じ司会者が司会して、第 1 部「我らが青春を語る」を司会者の問に答えるという対談形式で進められた。この 2 人の歌手は私たちと同時代人で、菊池章子は戦時中戦地の兵隊さん慰問のためベトナムに行った時の思い出を語り、又三浦洸一は学生時代勤労働員で兵器工場で働いた経験があるなど、その青春時代、私たちと同様苦しい戦争体験を持っている。そして先ず私が驚いたのは、

菊池章子が大正13年1月生れの71歳で、14歳で歌謡界にデビューして以来、60年間現役で歌い続けているということだ。テレビではしょっちゅう歌手の歌う姿をみているが、本物をみたのは、ここ何10年間1度もない。とても71歳などとはみえない。声もきれいで張りがあって若々しい。われわれと同じ老人でも、こうして現在なお元気で歌一筋に生きている姿に深い感銘を受けた。

三浦洸一は、昭和3年1月生れの67歳で、この人には約20年前、歌唱指導をお願いしたことがあって会っているし、後で彼もそのことを思い出してくれた。しかし私の目には20年前の45歳当時とあまり変わっていないように感じた。三浦半島にあるお寺の倅さんだそうで、司会者が歌謡界の紳士といわれていると紹介したが、濃い空色の無地の背広に身を包んで、端正な姿勢で歌う姿はまさに歌謡界の紳士という呼び名の通りで、これ又「若いなあ」と感嘆した。

さて私は歌のことに一切触れないで、歌手が老人でありながら若さにあふれているその姿に感嘆の声をあげたことのみを書き綴って来たが、歌っている歌について、巧いのだろうが、よくわからなかったというのが正直な感想である。というのは、伴奏が前日1000名入った時のままのボリウムを上げたままにしてあったのかと思われるほど高過ぎて、歌手の歌声が伴奏の音楽に消されてよくきこえなかったからである。ただ一度だけ、菊池章子が少女時代に歌った満州娘の歌を伴奏なしで「一寸うたってみましょうか」と云って歌ってくれたが、それがきれいな声で、早朝群がる雀の^{さえず}囀りをきいた時のように大変心持よかったことが強い印象となって残っている。

編集後期

「ちば市老連だより」第3号をお届けします。本号は、昨年から活発な活動を展開している婦人活動推進部主催の講演会および第1回女性リーダー研修会における実践活動の発表を特集しました。執筆を依頼した方々には慣れない原稿執筆でご苦労されたと思いますが、そうした会員皆様のご協力なしでは、「市老連だより」の成長、発展は望めません。毎号お願いしておりますが、会員の投稿がさっぱりありません。よろしくお願いします。

投稿先 〒260 千葉市中央区中央1-3-1（千葉市社会福祉事業団ビル内）

千葉市老人クラブ連合会事務局

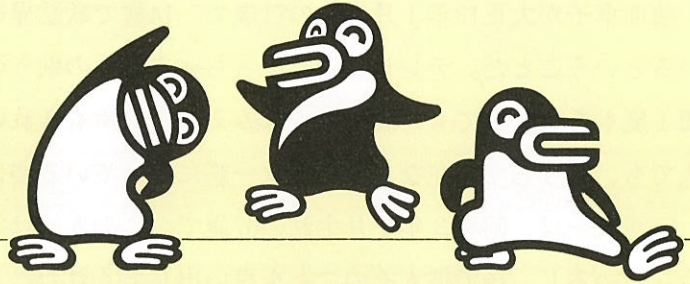
編集・発行

千葉市老人クラブ連合会 代表者 波多野 透
千葉市中央区中央1-3-1（千葉市社会福祉事業団ビル内）
TEL. 043（224）2050

第 3 号

老人クラブ保険

クラブ活動中のケガを補償する
会員のための保障制度です。



掛金と補償額

Aタイプ 掛金 年間1,000円	補償額	ケガによる死亡	100万円
		ケガによる後遺障害	最高100万円
		入院	1日につき(180日限度)1,500円
		通院	1日につき(90日限度)1,500円

*入通院は、全治7日以上ケガのみ対象

• 年間掛金500円のBタイプ(補償額Aタイプの半額)もあります。

• 手術が必要な場合、付添人が必要な場合、上乗せして保険金が支払われます。

保険の特長

- ♥ 老人クラブ会員は、だれでも加入可能。年齢制限一切なし。
- ◆ いつ掛金を振り込んでも、翌月1日から保険は有効。

お問い合わせは

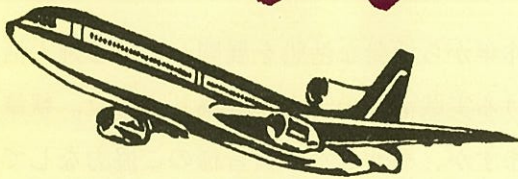
各都道府県・指定都市老連または全国老人クラブ連合会保険係まで

〒100 東京都千代田区霞が関3丁目5-1 霞が関IHFビル1階 ☎03-3597-8770

海外・国内旅行のご相談は



旅



運輸大臣登録一般旅行業 第138号

(株) 東京旅行 千葉支店

TEL 043-225-6621

マリアチャペル 千葉ポートタワー前

ちば玉姫殿 ☎043
247・5511

●病院から ●ご自宅葬 ●ホール葬 ●社 葬

◆全宗派でのご利用可能

◆斎場・役所手続代行

ホール会場ご使用料無料

せしモニー

穴川ホール ☎252・4444

作草部ホール ☎255・4444